

やまとととひももそひめのみこと いきせりひこのみこと
倭迹迹日百襲姫命と五十狭芹彦命

日本先史古代研究会 会員 池田博文
(讃岐国一宮田村神社 宮司)

新年明けましておめでとうございます。謹んで新春のお喜びを申し上げます。

さて、私が御奉仕しています讃岐国一宮、田村神社は和銅二年（709年）に社殿が創建されたとあり御祭神に第七代孝霊天皇の第二皇女であられる倭迹迹日百襲姫命をおまつりいたしております。この神様は岡山県高松町鎮座の吉備津神社、又同じく一宮町鎮座の吉備津彦神社におまつりしている五十狭芹彦命（大吉備津彦命）のおねえ様にあたられます。話は1300年も昔に遡りますが、当時の日本（倭の国）に大乱が起こり、世の中が乱れに乱れておりました。先の孝霊天皇は事を憂い手幼い兄弟を都（奈良）から遠く離れた、姉は讃岐へ弟は吉備の国へと、お逃がしになられました。その後乱が治まり姉は成人を迎えるとともに都に呼び戻され、今は大和國城上郡大市村にある箸の陵（みささぎ）といわれる箸墓に鎮まれ、弟はそのまま西海を鎮定し吉備國の祖神とされました。

お二人が瀬戸内海をはさんでお住みになられた讃岐と吉備の國は古（いにしえ）より年間の降水量が少なく、雨水に頼る日々でありましたが、お二人力を合わせて灌漑整備にいそしみ、農業殖産にあたられました。その一方で当時瀬戸内を中心に悪行をはたらき良民を苦しめていた海賊・山賊の族（やから）を退治し國の治安を計りました。この物語は昔話に出てくる、「もも太郎の鬼退治」として語り継がれております。このようにお二人の偉業を称え、それぞれのお宮におまつりするようになりました。今も昔も人々は力をあわせ事に当たり、世の中をまとめてゆかなければならないと言う教訓を現代の人々に教えており、はるか昔このような神様のおかげで今の岡山・香川が豊かであり、これからもお隣どうし二県が力を合わせてゆかなければなりません。

暗い話題ばかりの昨今ではありますが神々の力をいただき勇気をもって元気に生きてゆこうではありませんか。皆様の益々のご健勝を祈願し、奉賀のお喜びを申しあげます。



やまとととひももそひめのみこと
御祭神は 倭迹迹日百襲姫命（通称＝卑弥呼女王？）（お墓は箸中古墳です）

**岡山の吉備津彦神社に御祭りしている五十狭芹彦命(大吉備津彦命)の姉上様
皆様是非お参りませんか 編集者記**